

第279号

目 次

関 係 法 令.....	2	叙 位.....	4
諸 会 議.....	2	富山大学職員成人式.....	4
学 事.....	3	寄 稿〈タイでの「軽い話」〉.....	4
昭和61年度民間機関等との共同研究について.....	3	寄 稿〈ガンダーラ発掘とパシュトウ人〉.....	6
昭和62年度共通第1次学力試験の実施.....	3	職 員 消 息.....	8
人 事 異 動.....	3	主 要 行 事.....	9
学 内 諸 報.....	4		

学 事

昭和61年度民間機関等との共同研究について

部 局	民間機関等	研 究 題 目	研 究 期 間	区分	研 究 経 費
工 学 部	キタムラ機械(株)	工作物のインプロセス計測と制御	62. 1	C	360 千円
			62. 3		

昭和62年度共通第1次学力試験の実施

昭和62年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、去る1月24日(土)、25日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。共通1次の制度が始まって以来本年は第9回目です。

富山県では、県内で受験を志願している者が5,051名(男3,180名、女1,871名)あり、富山大学4,151名(男2,680名、女1,471名)、富山医科薬科大学(富山中部高校で実施)900名(男500名、女400名)でそれぞれ実施されました。

本学では、共通第1次学力試験実施委員会で計画された実施体制に基づき、五福地区6試験場において大井学長を実施本部長とし469名の教職員が試験に携わり、初日は、国語、理科の2教科、2日目は、数学、

外国語、社会の3教科を予定どおり終了しました。

本年度より、受験科目が5教科7科目から、5教科5科目(理科、社会がそれぞれ1科目)に削減された。また、大学・学部等によって、受験を要する教科の指定が異なるため、受験生の選択により教科間の受験者数に変動が見られました。

なお、本学関係の受験状況は、次のとおりでした。

	国 語	理 科	数 学	外国語	社 会
志願者数	4,151	4,151	4,151	4,151	4,151
受験者数	3,954	3,899	3,897	3,951	3,723
受験率%	95.3%	93.9%	93.9%	95.2%	89.7%

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	62. 2. 1	松 岡 潔		教授(経済学部)	文 部 大 臣
	"	山 崎 清		"	"
昇 任	"	伊 藤 紀 男	講師(工学部)	助教授(工学部)	"
	"	袋 谷 賢 吉	"	"	"
配 置 換	62. 1. 16	高 橋 成 忠	施設課長(上越教育大学)	施設課長	"
	"	高 久 晴	施設課長	所長補佐(文部省大臣官房文教施設部仙台工事事務所)	"

室に秘蔵され、それ以来、毎日、通訳氏は「スポッ」と三角を取り、指で中を押す。次に鼻を当てて匂いがかぐのが日課となった。一週間が過ぎてもOKは出なかった。

ある日、通訳氏は所用の為、バンコクにもどることになった。ドリアンをどうする？ 彼はドリアンを再びあの店へもって行き、何とかすると答えた。



『果物の王様、ドリアン』

翌日、私は仕事からもどり、ホテルの自室に入ると何かの芳香が鼻をついた。フト見ると、いつものドリアンでない別のドリアンが私の室に持ち込まれており、通訳氏の書置きがあった。曰く、『明日、必ず食べることを、一日早くとも、一日遅くともいけぬ。』私は仲間、明日、念願が成就することを伝えてまわった。翌朝、6時30分、いつもどおり朝食を済ませて仕事に出た。しかし、私は、その匂いの強烈なるが故に、ホテルにドリアンを持ち込んではいけないことを知っていたので、万一のことを考え、厚手のビニール袋に二重につつんで置いた。一日位、良いだろうと思ったのである。

帰って来た。エレベーターを4階まで昇って止まり、戸が開く。と…何やら臭う！私はハッとした。あの臭いだ！もしかして、と私は4階の廊下を脱兎の如く、自分の室へ走る。しかし、ああ！室の前に立つとまぎれもなく、臭いは私の室の中からである。鍵を開ける間ももどかしく中へ入ると、ドリアンの入ったビニール袋は汗をかいていた。ドリアンは密封され、暑さで急速に熟したのである。ドリアンは外皮に鋭いトゲをもっており、二重にしたビニール袋のどこかに小さな穴があいたらしい。私は一瞬の後、ドリアンを抱き、

ベランダへ飛び出し、スミにかくした。「ホッ、とするやいなや、自室のドアが激しくノックされた。「ホテルの他の客の誰かが文句を言いに来たのだ！」「仕方ない…。」おもむろにドアを開けるとメイドさんが4人、ドッと入ってきて、何やらタイ語で叫ぶ。わからない、が、わかるような気もする。

メ「ドリアンどこへやった？」

私「あれは臭いのでしまった。」

メ「ダメよ！持ち込んじゃ。第一、あんなに大きいのはあんた一人じゃ食べきれないでしょう？ 出さないよ！」

私「あれはもうしまった。仲間と食べる。」

メ「ブツブツ…」

私「ブツブツ…」

結局、もうしまった、で押し通し、仲間を呼んで大急ぎで食べてしまった。

味はどうであったかということ、気が動転していたので何とも言えない。機会があれば、御自身でぜひ一度試してみられることをお勧めする。但し、ドリアンの学名 *Durio zabethinus* の種名の意味は、『ジャコウの匂いのする』ということだそうである。

筆者は『日本の海岸に棲む動物はどこから来たか』を調べる為、およそ2カ月、タイに滞在した。その時の印象を書いてほしいと頼まれたが、書き始めて、何回も書き直して、「重い、のである。『タイ』とはその国の言葉で『自由』を意味する。しかし、タイの人々の暮し、考え、望み、不満はいまどこかで日本と結びついてしまう。それが、たいてい、[やりきれない気持ち]にさせてしまうような事柄なのである。従って、私は、いっさいそれらを書かないで、せいっぱい「軽く」書いた。

▶ 筆者は、文部省科学研究費補助金(海外学術調査)の研究分担者として、昭和61年10月7日から昭和61年12月11日まで2か月間「日本の暖海性動物の東南アジア海域からの分化・拡散に関する研究(第一次)」で棘皮動物の担当としてタイへ外国出張されましたので、特に原稿を依頼したものです。

寄 稿

ガンダーラ発掘とパシュトウ人

人文学部教授 小谷仲男

私は1986年の10月から12月までガンダーラ仏教遺跡ラニガトの発掘調査にでむいていた。遺跡の所在はパキスタン西北辺境州、首都イスラマバードから西北へ130キロ、ペシャーワルからは東北100キロほどのところ。ペシャーワルはかつてのガンダーラ国首都、現在は西北辺境州の州都である。いま国境付近のアフガンゲリラを空から攻撃するソ連軍飛行機の爆撃音がときおりきこえてくるという国境の町である。

ラニガト遺跡の日本隊による発掘は1984年に開始し、今回が第2回目。今後のみとおしをたてる必要もあり、思いきって発掘区域を拡大した。日本人調査員8人にたいし、村人を人夫として450人、土捨て用のロバ150頭を雇う。前回の約3倍の規模。ヒトとロバがいりみだれ、牧歌的というよりやや喧噪ぎみの現場となった。しかしおかげで日々新しい発見があり、丸2か月の調査期日がまたたくうちに過ぎた。

11月16日(日)のフィールド・ノートから。

朝モヤたちこめるも、日中太陽が出てあたたかい。気温28度くらいか。昨日最高25度、最低14度、湿度高し。(11月中旬から12月にかけて必ず雨がふる。農民はその前にコムギの播種をおこない、雨乞をする。発掘には雨は禁物だが、幸い全期間通して雨で作業中止したのは1日半ですんだ。)

主塔内蔵の小塔は方形基壇上まで姿をあらわす。(径3m、高4m)基盤(床)まであと150cmでいど。近接小塔(北側)との間隙は83cm。(ラニガトに創建された中心仏塔が、ある時期に修復拡張され、もとの塔形がそのまますっぽりと内につつまれ保存された。ただ原初塔を飾っていたはずのガンダーラ石彫はどこかに転用され、その痕跡のみのこる。美術史からみれば残念だが、仏塔の変遷を明らかにする貴重な発見であった。)

西塔。トンネルつき基壇西壁ぞいに等身大石彫二体出土。ブツダ胸部(残高110cm)と頭なしブツダ・トルソー(残高160cm)、テント前まで運びこむ。トルソーは重く、2本の棒をそえロープで固定し、人夫15人で移動。1時間かかる。人夫ひとり指けが。

(ガンダーラ石彫の重さを実感。今回このような等身大かそれ以上の巨像を10体あまり発掘。テント前の遺構の一隅に収容し、さいごに埋めもどして帰った。来シーズンはここに簡単な収蔵庫をたて、同時に見学者のためのミニ博物館にする予定。)

村の広場で人夫イスマイルの父とザミンシャーとがけんか。人夫たちは山の上から見物。

(人夫は目もいい、耳もいい。はるか下界の村の様子をたちまち山上で察知してしまう。ザミンシャーは前回人夫であったが、遺跡を故意に破壊したことがあり、今回は雇わなかった。不満があるのだろうか。)

宿舎にて。となりの民家にこの2、3日、子供が集まり、太鼓をたたきコーランを誦める声がかけていたが、今日は静か。聞けばその家では本日2人の子供に割札(スナチ)を施したという。にぎやかだったのはその前祝い。

さいごの項は私たち宿舎のある村でのできごとである。ここでもうすこし私たちの発掘を手伝った村人パシュトウ人のことを紹介しよう。私たちの宿舎は前回と同じく、マルダン県シェワ村、スワート運河ぞいのキャナル・バンガローを借りた。電気もあり、井戸水も豊富。ところがラニガト遺跡のあるナオグラム村は運河から遠く離れ、山ぎわにあるので水が乏しく、まだ電気もない。宿舎をおくには不便。村人は農耕のほか家畜を飼い、ちかくの石切場の労働者となるものもいる。発掘が始まると村人の大半が人夫となる。遺跡は村の背後の尾根上にあり、急な山道を3～40分のぼらねばならない。村との比高は270mであるが、山のぼりが毎日の日課となると、文字通り骨身にこたえてくる。

ナオグラム村の戸数約200。村全体が4つ、ないし3つのタバラからなるという。タバラは同族とでも訳すか。タバラにはマシャラン(長老)がおり、私たちに各タバラから平等に人夫を雇ってくれという、しかし前回もそうだったが、タバラが4つ、いや3つだといってはげしい口論になる。とうぶん決着しそうにない。有力なタバラが勝手に分裂して得をしようとして

いるというのが反対派の言い分らしい。議論のはて村から人夫をひとりも出さないといいたしたこともあり、私たちは何度かタバラ論争にふりまわされた。村の若者たちはマシャランたちの頭は固いといって笑うが、ともかく長老たちの話しあいがつくまで働こうとはしない。今回の調査のさいごでもひと悶着あった。次のシーズンまで遺跡の番人にだれになるか。私たちは人夫頭をつとめたシャイロームとほか一名を推した。マシャランたちは5名という。シャイロームと4つのタバラから1名ずつ。しかし番人の謝礼は2人分の金額でよいという。なんと自尊心のつよい人たちか。

ナオグラム村からばかり人を雇うと、今度はほかの村から苦情がくる。今回はモグダラ、ティグリ、アマノコト、ブットカネなどの村からも雇った。ティグリ村を除けば、みな山を越え谷をくだり、片道1時間半の道のりをあるいてくる。村がちがってもかれらはお互いに親しい。ホド・ケールという同一氏族に属する。いくつかのケールが集ってユースフザイという部族になる。このユースフザイがガンダーラ盆地からスワート峡谷一帯に居住するバシュトウ部族である。バシュトウ族全体の分布はさらに広く、主としてパキスタン西北辺境州からアフガニスタン南部を占める。両国のバシュトウ人はそれぞれ600万人でいどの人口を有するという。ユースフザイのほか大小数多くの部族に分れている。

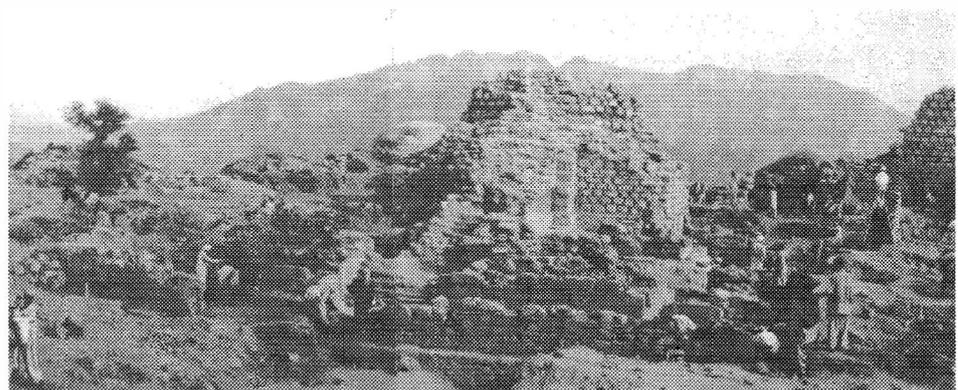
1979年アフガニスタンに親ソ政権が成立し、それを援助するため現在10万人以上のソ連軍隊がアフガニスタンに駐留する。それと戦う反政府ゲリラもバシュトウ人である。戦乱を避け、多数のアフガン難民がパキスタンに流れこんだ。その数300万人ともいわれる。私たちの宿舎ちかくにも大きな難民村ができていた。難民の一部は西北辺境州をこえ、パキスタンの他の都市へも流れこんだ。

1986年12月にカラチで発生した暴動もアフガン難民

の動きとかかわっているらしい。事件の発端はカラチ在住のバシュトウ人とムハージル（1947年独立のさい、インドからパキスタンに移ってきたイスラム教徒）との小さな武力衝突からはじまったが、根は深かった。私は12月19日夜カラチ空港に着いたが、空港から市内までの15キロの道は、人かげなく不気味であった。カラチには21日まで滞在したが、外出禁止令は市内のあちこちにしかれており、扉を閉じたままの店も多かった。カラチにはもともとバシュトウ人の出かせぎが多く、タクシーの運転手や銀行などの守衛として働き、カラチの一角にはバシュトウ人居住区がある。居住区へは季節ごとにバシュトウ遊牧民（クーチー）がアフガニスタンからやってくる。最近ではアフガン難民3000家族あまりも身をよせた。居住区の市場では、さまざまな密輸品にまじって、麻薬、武器が取引されていたらしい。その仕入先は規制のゆるい西北辺境州である。西北辺境州ではバシュトウ人にとって武器の携帯は日常のことであり、けし（アヘン）の栽培も年々コムギにとってかわってふえつづけている。それに反政府運動や国際的麻薬組織がからむと複雑な様相を呈し、パキスタン政府はカラチ暴動事件の処置で苦境にたたさされている。ながびくイラン・イラク戦争やアフガニスタン問題など、世界情勢のひずみがあらわれたといえる。発掘村の周辺でおこなわれるガンダーラ美術の盗掘やけしの栽培は、村人たちの将来にけっしてよい結果をもたらさないであろう。今年こそ国際情勢が好転にむかうことを祈りたい。

▶ 筆者は、文部省科学研究費補助金(海外学術調査)の研究分担者として、昭和61年10月4日から昭和61年12月22日までの約3か月間、「ガンダーラ仏教遺跡の総合調査」のためパキスタン、インドへ外国出張されましたので、特に原稿を依頼したものです。

ラニガト遺跡の発掘
主塔正面



職員消息

計 報

富山大学名誉教授 新田隆信氏逝去

本学名誉教授新田隆信氏が昭和62年1月16日心不全のため逝去されました。享年70歳。

同氏は昭和16年東京帝国大学法学部法律学科及び同18年9月同大学法学部政治学科をそれぞれ卒業され、公立学校教諭、富山師範学校教官を経て、同24年6月富山大学教育学部助教授に就任され、同29年6月同大経済学部助教授、同45年8月同学部教授に昇任、同57年4月1日停年により退官されました。

この間、富山師範学校に奉職以来、39年余にわたり、「憲法」担当の教官として教育・研究に務められ、厳正なる教育姿勢のなかにも終始懇篤なる温情をもって、学生の教育と指導にあたり、広く社会各方面の指導者たるべき人材の育成に貢献されました。

一方、研究面においては、その卓越した語学力を駆

使して憲法なかなづく統治機構に関する比較法的研究に精励され、多数の優れた研究論文を発表して憲法学、政治学、歴史学に対して大きな貢献をされました。

また、昭和45年9月から同53年9月まで4期・8年間にわたり、経済学部長を務め、経済学部の管理運営に尽瘁するとともに同学部の拡充改組に意を傾注し、経営学科及び経営法学科を新設する等同学部の充実発展に尽力されました。同57年4月、教育上及び学術上の功績により、富山大学名誉教授の称号が授与されました。

なお、葬儀は、富山市荒川東富山新庄教会にて執り行われました。

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

教 授 小松 和生

《新任者住所》

経済学部

教 授 松岡 潔
(応用経済学)

理 学 部

助 手 中村 省吾

教 授 山崎 清
(理論経済学)

《住所変更》

教育学部

文部事務官 作井 功

教 養 部

助 教 授 小林久壽雄

理 学 部

- 1月12日 授業開始
学部教務委員会
- 14日 教授会
理学研究科委員会
真率会総会
新年懇親会(於：富山ステーションホテル)
- 16～22日 大学院理学研究科入学願書(2次)受付
- 16日 事務連絡会
- 20日 学部長候補者選挙管理委員会
- 26日 人事教授会
- 27日 教官会議
- 29日 事務連絡会

工 学 部

- 1月8日 選考委員会
温交会総会
- 9日 入学試験検討委員会
- 10～16日 大学院工学研究科入学願書(2次)受付
- 12日 授業開始
- 14日 教官懇談会
学科主任会議
- 21日 教授会
専任教授会
- 22日 事務系共通1次試験説明会
- 28日 工学研究科委員会
学部改革検討委員会

教 養 部

- 1月12日 授業開始

- 14日 教務委員会
予算委員会
- 21日 教務委員会
教授会

附属図書館

- 1月13日 情報処理センター及び図書館との電算化打合せ会
- 14日 情報処理センターと図書館及び富士通との電算化打合せ会
- 30日 婦人科検診
係長事務打合せ会

トリチウム科学センター

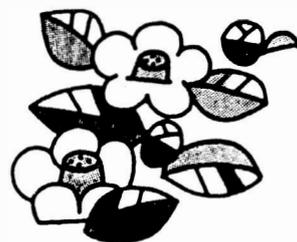
- 1月19日 昭和61年度第5回富山大学トリチウム科学センター運営委員会
- 26日 昭和61年度第5回富山大学トリチウム科学センター研究審査専門委員会

保健管理センター

- 1月16日 臨時健康診断(寒中水泳参加者)
- 30日 婦人科検診(職員・35歳以上女子)

経営短期大学部

- 1月9日 授業開始
- 22日 教授会
- 29日 後学期授業終了
- 30日 学部図書委員会



訂正（おわび）

学報 昭和62年1月1日発行 第278号

ページ	訂正箇所	誤	正
3	学内規則	昭和62年 1月1日から施行	昭和61年 12月19日から施行

昭和62年度全国火災予防運動

昭和62年2月28日(土)

～ 3月13日(金)

—防火の大役 あなたが主役—

◎ 積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止めますよう!!

◎ 積雪時は、構内除雪の障害とならないよう駐車に注意しましょう!!

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻…午後10時……御協力を……!!

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (24) 1755(代)